

令和3年度 事業報告書

一般社団法人 日本エレクトロニクスショー協会

令和3年度 事業報告

一般社団法人 日本エレクトロニクスショー協会

1. 法人総括報告

国内の多くの企業と同様に、当協会も、令和2年2月より流行した「新型コロナウイルス感染症」の影響を受け、受託事業である「CEATEC 2021」は、幕張メッセでの会場開催(リアル開催)を中止とし、オンライン開催へ移行、「Inter BEE 2021」は、リアル開催とオンライン開催の両建ての活用となるハイブリット開催へと移行しました。

引き続き、主催者と緊密に連携をとり、出展企業の業績向上に貢献することを目指すとともに、Society 5.0を基軸として、景気回復を目指す経済活動を支援するために、関係省庁、国内外の関係団体ならびに関連産業との連携を緊密化し、業界団体が主催する新たな展示会の企画、運営に努めました。

一方、当協会主催にて5月に開催予定であった「After NAB Tokyo」は、「NAB Show 2021」開催日の順延と、新型コロナウイルス感染への対策として、開催を中止としました。

事務局の運営では、感染症拡大への対応として、在宅勤務を基本とし、国・東京都等の指導に基づく業務方法に切り換えるとともに、継続的な法人運営を維持するために、経費削減に努めました。

2. 協会運営事業実施報告

総会、理事会、運営役員会等の当協会の運営に関わる重要事項を審議する会議に関しては、新型コロナウイルス感染症への対策として、書面審議、メール審議を基本として、次の通りに開催し、円滑な運営を実施した。

(1) 総会

①第16回通常総会(書面審議) (令和3年6月2日)を開催し、次の議案を決議した。

- ・令和2年度事業報告及び決算報告承認の件
- ・令和3年度事業計画(案)及び収支予算(案)承認の件
- ・役員選任の件
- ・役員報酬の件

②第17回臨時書面総会(令和3年12月8日)を開催し、次の議案を決議した。

- ・令和3年度事業計画変更案承認の件
- ・令和3年度収支予算変更案承認の件
- ・役員選任の件

(2) 理事会

①第53回書面理事会 (令和3年5月13日)を開催し、次の審議事項を承認した。

- ・令和2年度事業報告案承認の件
- ・令和2年度決算報告案承認の件
- ・役員選任の件

- ・役員報酬の件
- ・書面審議による第 16 回通常総会の議案承認の件
- ②第 54 回書面理事会（令和 3 年 6 月 2 日）を開催し、次の審議事項を承認した。
 - ・代表理事、執行理事の選定
 - ・役職役員の選定
 - ・役員報酬の件
- ③第 55 回書面理事会（令和 3 年 11 月 22 日）を開催し、次の審議事項を承認した。
 - ・令和 3 年度事業計画（変更案）承認の件
 - ・令和 3 年度収支予算（変更案）承認の件
 - ・役員選任（案）承認の件
 - ・第 17 回臨時総会の書面審議による議題承認の件
- ④第 56 回書面理事会（令和 4 年 3 月 29 日）を開催し、次の審議事項を承認した。
 - ・令和 4 年度事業計画（案）承認の件
 - ・令和 4 年度収支予算（案）承認の件
 - ・理事への特別報酬支給の件

(3) 運営役員会

- ①第 52 回運営役員会(令和 3 年 5 月 11 日)をメール審議にて開催し、次の事項を審議した。
 - ・第 53 回書面理事会附議議案の件
 - ・第 16 回通常総会附議議案の件
 - ・第 54 回書面理事会附議議案の件
- ②第 53 回運営役員会(令和 3 年 11 月 11 日)を開催し、次の事項を審議した。
 - ・第 55 回理事会の開催方法に関する件
 - ・第 55 回書面理事会附議議案の件
 - ・第 17 回臨時書面総会附議議案の件
- ③第 54 回運営役員会(令和 4 年 3 月 23 日)を開催し、次の事項を審議した。
 - ・第 56 回書面理事会附議議案の件

3. 展示会事業実施報告

3-1 「CEATEC 2021 ONLINE」

(1) 実施状況

CEATEC 2021 は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、リアル開催を中止とし、昨年同様にオンライン開催とした。

今回で 22 回目を迎える「CEATEC」は、2022 年以降の開催も見据え、リアル開催の優位性を如何にしてオンライン開催でも実現できるか、具体的には、リアル開催における「リアルタイム」コミュニケーションを如何にしてオンライン開催においても実現できるかを旨とする新たな展示会として、昨年独自に開発した展示会プラットフォームに、新たな機能を追加して開催した。

開催テーマは、これまでの幕張メッセでの開催と同様に「つながる社会、共創する未来」とし、「未来の社会を世界に向けて描く Society 5.0 の展示会」として、未来社会に向けた課題を解決する

各種ソリューションを広く発信した。また、社会のあり方や価値観、行動様式が変わりつつある日常生活における課題の解決が求められている中で、「CEATEC-Toward Society 5.0 with the New Normal/ニューノーマル社会と共に歩む CEATEC」をオンライン開催の推進スローガンとして掲げた。

会期は、初めて実施した9月のイベントを経て、10月19日（火）から22日（金）までの4日間とし、その後は、アーカイブ期間として11月30日まで情報公開を行うとともに、11月にはアフターイベントを実施して、延べ3カ月に渡り CEATEC を開催した。

本年の開催規模は、出展者数 314 社/団体（うち海外：20 カ国/地域から 85 社/団体）、開催期間中の入場者数は、合計で 61,057 名であった。開催期間中に来場した報道関係者は 307 名、CEATEC に関する情報が連日国内外のオンラインニュース、テレビ、新聞等で発信された。

オープニングセレモニーは、会期の開催に先立ち、10月15日（金）午後1時よりオンラインにて開催した。一般社団法人電子情報技術産業協会 綱川 智会長による主催者代表挨拶、ご来賓として、金子 恭之 総務大臣、萩生田 光一 経済産業大臣、一般社団法人日本経済団体連合会 南場 智子 副会長より、ご祝辞をいただいた。

また、グローバルパートナー展示会の米国民生技術協会（CTA）ゲーリー・シャピロ 社長兼 CEO とメッセベルリンググループ イエンズ ハイテッカー 副社長からメッセージをいただいた。更に、同日午後より、オープニングキーノートスピーチとして、株式会社東芝 綱川 智 代表取締役社長 CEO、牧島かれん デジタル大臣、Cognite AS ジョン・マーカス・ラービック 共同創業者兼 CEO による講演が行われた。

10月19日（火）からの会期4日間にわたり 134 セッションを配信し講演の聴講者数は、合計で 78,649 名となった。

(2) 収支報告

本年は、出展者数 314 社がオンラインにて出展し、その出展料および広告・施設関連等の収入を含む本事業の収益合計は、189,174,500 円となった。それに対する事業費支出は、98,532,160 円となり、法人運営（人件費、事務所家賃等）の振替 85,000,000 円を加算した支出合計は 183,532,160 円となり、単年度収支差引は、5,642,340 円となった。

前年度繰越金 14,426,978 円と本年の収支差引額の合計 20,069,318 円が、次年度繰越額となった。

(3) 展示構成

本年のオンライン開催に伴い、展示構成を次の通りとし、会場エントランス、展示エリアそして各社ブースのデザインを一新した。

①企業エリア：プレミアムプラン/スタンダードプラン/ベーシックプラン

（自社ブランドやソリューション、サービス、製品やデバイス、電子部品を紹介）

②Society5.0 エリア：カーボンニュートラル/スーパーシティ・スマートシティ/

デジタルトランスフォーメーション

③Co-Creation PARK: スタートアップ、大学・教育機関

（設立9年以下の国内外のスタートアップと教育機関を対象）

(4) CEATEC AWARD 2021

開催テーマ「つながる社会、共創する未来」のもとに、CPS/IoTによる「Society 5.0」の実現を目指し、ニューノーマル社会への提案を含め、新たな価値と市場の創造・発展に貢献、関係する産業の活性化に寄与することを目的に「CEATEC AWARD 2021」を実施した。

①総務大臣賞

「NECが目指す未来のまち ～スーパーシティ～」 日本電気株式会社

②経済産業大臣賞

「フィルム型ペロブスカイト太陽電池」 株式会社東芝

③部門賞

●カーボンニュートラル部門賞

・グランプリ

「フィルム型ペロブスカイト太陽電池」 株式会社東芝

・準グランプリ

「潮流発電システムで海の様々なデータを見える化エネルギーハーベスト型スマートブイ」
京セラ株式会社

●スーパーシティ/スマートシティ部門賞

・グランプリ

「NECが目指す未来のまち ～スーパーシティ～」 日本電気株式会社

・準グランプリ

「ソフトバンク Smart City Platform」 ソフトバンク株式会社

●デジタルトランスフォーメーション部門賞

・グランプリ

「リモート応援システム Remote Cheerer powered by SoundUD」
SoundUD 推進コンソーシアム

・準グランプリ

「独自の物体認識 AI 技術を搭載した、画像認識型 スマート無人レジシステム」
京セラ株式会社

●ソリューション部門賞

・グランプリ

「Non-Terrestrial Network 構想グローバルに展開する宇宙・成層圏通信」
ソフトバンク株式会社

・準グランプリ

「東芝の量子暗号通信で安全なオンライン社会を実現」 東芝デジタルソリューションズ
株式会社

●要素技術・デバイス部門賞

・グランプリ

「健聴力で、あなたと世界をつなぐ。メディカルリスニングプラグ」 シャープ株式会社

・準グランプリ

「VENUE：地磁気による屋内測位が働き方を変える」 TDK 株式会社

●Co-Creation PARK 部門賞

・グランプリ

「極軽量/省電力エッジ AI アルゴリズム MST (Memory Saving Tree)」株式会社エイシング

・準グランプリ

「Marine Drone(純国産水上ドローン)水上作業の自動化、デジタル化」 炎重工株式会社

④CEATEC AWARD 2021 受賞内容の紹介

会期中公式サイト内に特設ページを設け、受賞の榮譽を称えるとともに、今年の CEATEC の見どころの一つとしてもオンライン展示エリアの各所で紹介。アーカイブ期間となるアフターイベントでは、受賞企業の登壇による受賞企業セッションを実施した。

(5) 出展者数/入場者数

①出展者数 (314 社/団体)

企業エリア	160
プレミアムプラン	29
スタンダードプラン	74
ベーシックプラン	57
Society5.0 エリア	24
カーボンニュートラル	8
スーパーシティ・スマートシティ	10
デジタルトランスフォーメーション	6
Co-Creation PRAK	130

②海外出展状況 (20 カ国/地域・85 社/団体)

アジア地域・6 カ国/地域・28 社/団体、北米地域・2 カ国/地域・27 社/団体、
欧州地域・10 カ国/地域・27 社/団体、中東地域・2 カ国/地域・3 社/団体

③入場者数

	10月19日(火)	10月20日(水)	10月21日(木)	10月22日(金)	合計
入場者数	15,836	15,043	15,926	14,252	61,057

④コンファレンス聴講数

プレイベント：9月9日(木)～10月15日(金) 37日間 合計：31,159名

メインイベント：10月19日(火)～10月22日(金) 4日間 合計：78,649名

(6) オンデマンド期間

10月23日(土)～11月30日(火)までのオンデマンド期間には、延べ12,339名の入場者があった。会期中の61,057名と合計すると73,396名となった。

また、期間中、アフターイベントとして、CEATEC AWARD 2021 受賞企業キーパーソンと審査員が語る8つの特別セッションを11月5日、11月9日に開催し、聴講者は2,302名となった。

3-2 「Inter BEE 2021」

(1) 実施状況

Inter BEE 2021 は、コンテンツを中心に「つくる（制作）・おくる（伝送）・うける（体験）」全てを網羅したメディア総合イベントとして、幕張メッセでのリアル開催と、オンライン開催での展示とコンファレンスによる新たな情報発信の仕組みを取り入れたハイブリット開催とした。

会期は、11月17日（水）から19日（金）までの3日間、幕張メッセにて開催し、11月17日（水）から12月17日（金）までの約1か月、オンラインにて開催した。

本年の開催規模は、出展者数495社／団体（うち海外：34カ国／地域から242社／団体）、開催期間中の登録来場者数は、合計で18,308名であった。開催期間中に来場したプレス登録者は、203名であった。一方、オンライン会場の登録来場者数は12月17日（金）までの間で12,955名となり、プレス登録者は142名であった。

11月17日（水）にオープニング&キーノートとして、一般社団法人電子情報技術産業協会 綱川 智 会長による主催者代表挨拶の後、総務省 吉田 博史 情報流通行政局長、日本放送協会 児玉 圭司 理事・技師長、全米放送事業者協会（NAB）ゴードン スミス 会長による講演が行われた。

11月17日（水）からの会期3日間にわたり89セッションを配信し、講演の聴講者数は、12月17日（金）までの間、延べで55,429名となった。

(2) 収支報告

本年は、出展者数495社が出展し、その出展料および広告・施設関連等の収入を含む本事業の収益合計は、253,066,775円となった。それに対する事業費支出は、177,521,165円となり、法人運営（人件費、事務所家賃等）の振替66,000,000円を加算した支出合計は243,521,165円となり、単年度収支差引は、9,545,610円となった。

前年度繰越金2,342,851円と本年の収支差引額の合計11,888,461円が、次年度繰越額となった。

(3) 展示構成

本年の展示構成を次の通りとし、従来の部門構成を維持し開催した。

①プロオーディオ部門

スタジオ・配信・ライブ・施設の音響シーンを進化させる、国内最大のプロユース音響ビジネスイベント

②映像表現／プロライティング部門

エンターテインメント領域を拓げ、表現を革新する、新たなメディア演出・体験の発信とビジネスの場

③映像制作／放送関連機材部門

映像と放送プロダクションの新たな進化と潮流を発見する、最先端の提案とビジネスコミュニケーション空間

④ICT／クロスメディア部門

メディアとコミュニケーションのフィールドを拡張・進化、放送と通信の連携・融合と最先端技術発信の最前線

(4) 特別企画展示/特別企画セッション

特別企画展示

①INTER BEE IP PAVILION

IP リモートプロダクション+実体験+5G をテーマに、過去最大規模で最新の IP 伝送技術とライブ映像制作の基本を実感した。

②INTER BEE CREATIVE

国内で初めてインカメラ VFX 撮影デモを実施。次世代の映像制作手法に、多くの来場者の熱い視線が注がれた。

特別企画セッション

③INTER BEE FORUM

多彩な分野から、メディア環境の最新動向を発信した。

④INTER BEE EXPERIENCE (音響セッション)

EXPERIENCE と音響セッションのコラボレーション展開、音を出す唯一のリアルセッションに熱心な聴講者が集まった。

⑤INTER BEE CONNECTED

「変化する社会へ適合しているか?変化のポイントから見る!」をテーマにコンファレンスを実施した。

⑥INTER BEE IGNITION

メタバース/XR が生み出す新たなエコシステムテーマにセッションを実施した。

(5) 同時開催

①デジタルコンテンツ EXPO 2021 (一般財団法人デジタルコンテンツ協会)

日本のコンテンツ技術力を強化し、ビジネス化の契機とすることを目的に2018年から Inter BEE と同時開催を行い、デジタルコンテンツ関連のクリエイター、研究者、ビジネスパーソンなど、多くの来場者を集めた。

②民放技術報告会 (一般社団法人日本民間放送連盟)

民放連会員各社の放送技術に関する最近の研究、開発、創意工夫および環境対策などの報告をオンラインにて実施した。

(6) 出展者数/小間数

①出展者数

展示部門	出展者数	小間数
プロオーディオ部門	84	88
映像表現/プロライティング	16	15
映像制作/放送関連機材	356	602
ICT/クロスメディア	39	44
合計	495	749

②海外出展状況（34 カ国/地域・242 社/団体）

アジア地域・9 カ国/地域・78 社/団体、北中南米地域・2 カ国/地域・74 社/団体、
 太平洋・中東・アフリカ地域 2 カ国/12 社、ヨーロッパ地域・21 カ国/地域・78 社/団体

③登録来場者数

	11月17日(水)	11月18日(木)	11月19日(金)	11月20日(土) ～12月17日(金)	合 計
幕張メッセ会場	5,873	6,316	6,119	—	18,308
オンライン会場	5,270	2,906	1,537	3,242	12,955

以 上